

2026年度 事業計画書

特定非営利活動法人School Voice Project

NPO法人School Voice Project（以下SVP）は、学校で働く教職員のエンパワメント（＝変えていける実感の醸成）が、子どもたちのエンパワメントにつながるという信念のもと、山積する学校現場の課題を教職員の声の力で変えていくプラットフォームとして活動している。

Vision（私たちが目指すもの）：子どもも大人もしあわせな学校
Mission（私たちの使命・役割）：教職員のエンパワメント

1 今年度のハイライト・重点課題

●ハイライト

- 夏の「対話合宿」を60名規模で北軽井沢で実施する
- 冬の対面イベント「エンタクフォーラム」を100名規模で大阪で実施する
- 学校現場に変化を起こすコミュニティ型プログラム「エンジン」を、27名の参加者に向けて長期プログラムとして実施する

●重点課題

- オンラインコミュニティ「エンタク」のメンバー増加と活性化
- 「エンタク」での声や力を、ロビイング・社会発信に結びつけ、活かすこと
- ロビイング・社会発信のインパクト拡大（広報・PR）
- 認定NPO法人の取得による信頼性の向上と財政基盤の安定化

2 事業・プロジェクトについて

事業	プロジェクト (◎常設 / ●ほぼ常設 / ○単年度)	担当者
ロビイング 社会発信	◎基盤整備とアクション (ネットワーク構築・ノウハウ蓄積・記者会見・提言書提出・院内集会等) 「フキダシ」「エンタク」等を活用して集めた学校現場の声をもとに政策提言・ロビイングを実施する。地方議員・国会議員・文部科学省・教育委員会・研究者等とのネットワークや関係性を構築するとともに、効果的に提言活動を実施するためのノウハウを蓄積し、戦略的にアクションを実行する。	小林 武田

	◎内部盛り上げ（声を集める＋関与感づくり＋成果の実感を届ける） 全国の教職員が「声を発する意味」を感じ、「変えていける実感」を持てるようにする＝まずは「エンタク」メンバーや「フキダシ」登録者がその実感を持てるようになることをめざし、「エンタク」内でスレッドでのコミュニケーションの盛り上げや、おしゃべり会を実施したり、「フキダシ」登録者等に向けて外部公開のライブ配信「フキダシアンケートーク（声の共有と現状の報告・成果も喋る！）」を実施する。	ロビイング・社会発信チーム全体
	◎教職員を対象としたWEBアンケートサイト「フキダシ」の運営 インターネット上で現職教職員向けのアンケートを実施し、現職教職員のさまざまなトピックに対する意見や思いを収集する。 → みんなに聞きたいこと・エンタクおしゃべり会発アンケート：4本程度 → エンタクメンバー発やフキダシ登録者（みんなに聞きたいこと）発のアンケートも随時行う。 → SNS連携パートナーとの共同でインスタグラム完結のアンケートも実施し、フキダシやGoogleフォームでの回答につなげる	齋藤 小林
	◎WEBメディア「メガホン」 フキダシでとったアンケートを公開すると共に独自コンテンツとして学校現場を元気にする情報を発信するWEBメディアを運営する。 →「教職員チャレンジ図鑑」：隔月更新、「解説記事」：隔月更新・隔月で新規記事の公開、「キャンペーンページ」の充実等を行う。年間計画を年度当初に作成することで実現性を高める。 また「メガホンラジオ」での音声配信も継続する。	齋藤 建石・加藤 山本
	●すべての子を包摂する学校づくり推進ネットワーク（AISnet） マイノリティの子どもを含むすべての子を包摂する学校教育の実現を目指し、その法的基盤となる「<u>学校DE&I法（仮）</u>」の制定、その他必要な政策を推進する。ネットワーク団体の運営（SVPが事務局を担う）と賛同団体・個人の募集、記者会見やイベントの実施、政治家や教育行政関係者等に働きかけ、社会発信等を行う。	尾花 小谷 武田
コミュニティ構築	◎オンラインコミュニティ「エンタク」 教職員や学校を応援する市民を参加対象としたオンラインコミュニティ「エンタク」を運営し、「エンタク」内での交流や学び合いを通じて教職員のエンパワメントをめざす。イベント実施やスレッド書き込み等を通じたコミュニティを盛り上げ・活性化を図るとともに、メンバー増加を通じた仲間の輪の拡大、団体の活動基盤の安定化等を行う。	藤倉 上條 塚本 藤 山下 加藤
	◎学校現場に変化を生み出すコミュニティ型プログラム「エンジン」 全国各地の教職員がオンラインで集い、それぞれの職場で“マイチャレンジ”に取り組む長期プログラムを実施する（4月～12月）。試行錯誤を励ます場づくりを通して、学校現場の具体的な変化を目指す。 →基礎講座の企画、メンバー間のチームビルディングや「エンタク」内での非同期コミュニケーション等のファシリテート、メンバーのマイプロジェクトへの伴走サポート等を行う。	大野 工藤 武田 横山

	○みんなのルールメイキング・関東地域パートナー（業務委託3年目） 認定NP0法人カタリバからの業務委託を受け、関東地域において、ルールメイキングの実践を学校に広げるとともに、ルールメイキング実践者（生徒・教員）の熱を高め、主体性を引き出すサポートを行う。 →オンラインや対面での教員交流会や実践相談会、生徒同士の交流機会の創出、地域大会の開催等を行う	逸見 楠本 武田
イベント企画	◎対話合宿(9月20日～21日) 「エンタク」メンバーを中心的対象としつつ、外部にも公開して、同じビジョン・方向性を共有する仲間とのつながりを広げ、安心できる信頼関係を育むことを目指したエンパワメントの場づくりを行う。 →1泊2日のプログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。	武田 若杉 中谷
	○学校教育をめぐる公開対話会（オンライン） ゲストと現職教職員が、学校教育をめぐるさまざまなテーマについて対話するイベントを実施することで、学校教育にまつわる多様な問題について提起するとともに、団体や「エンタク」等の認知度の向上を図る。 →プログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。 概ね月1回程度開催予定（年間10回程度）。	山本 武田
	●冬の対面イベント・エンタクフォーラム（11月22日大阪開催） 昨年度に続き2回目の開催。今年も、対話を通して全国の教職員がつながり、エンパワメントされ、それぞれの地域で半径1mから教育を変えていく契機につながる会を大阪で実施する。また、今年は大阪開催のため、大阪の教育の歴史から「包摂する教室」とは何かを考える機会にする。 →プログラムの企画、参加者募集、その他ロジ等を行う。	榎原 久保 豊田 小谷 塚本 藤 山本 中谷

3 組織体制について

●マネジメント会議の継続と改善

限られた資源（ヒト・モノ・カネ）の中で、より効果的に社会的インパクトを発揮するとともに、持続可能かつ社会的責任に耐えうる組織にしていけるために、理事会の下に事務局とは別に、事業全体・組織全体を把握して、必要な議論をし、改善の手立てを提案していく「マネジメント会議」（月1回以上・必要に応じて適宜開催）を設置する。構成メンバーは理事もしくは職員とし、理事会・事務局・各チーム・会議等に対し、提案やフィードバックを行う（決定権は持たない）。

マネジメント会議について：

- 事業成果＝社会的インパクトを最大化するための機能（攻め・戦略）
 - ビジョン・ミッションに基づき、より効果的に事業や組織を運営するための施策を検討
 - 事業 / PJの連関や相乗効果を高める施策
 - 限られたリソースを有効に効率的に活用するための施策 等
 - 成果指標の把握管理と改善策の検討・理事会やチーム等へのフィードバック
- 組織や事業運営全体を健全かつ民主的でインクルーシブに保つための機能（守り・ケア）

- 法令違反や人権侵害、ハラスメント等に関する予防・課題発見・対応
- 組織内の関係性のケアやメンテナンス、コンフリクトへの対応
- 社会的・対外的な見え方にも目配りしたリスクマネジメント

●運営チーム（会議体）の再編成と役割整理・試行

チームごとにエンタクメンバー等を中心に人員を補強し、一人ひとりの負担が大きくなりすぎないような体制を構築する。チームごとにMTG頻度を決め、MTG設定責任者を置き、MTGが必ず実施されるようにする。また、MTGの際に次回までのタスク・担当者・〆切期日が明確になるよう、議事録のフォーマットを工夫することで、MTGさえ動いていれば、チーム運営が止まらない仕組みにする。チームごとに情報を一元管理するドキュメントを作成し、事務局や理事が現状を常に把握できる仕組みにする。

<法人運営及び組織運営に関する会議体>

チーム (会議体)		Mission・役割	MTG 頻度	メンバー ★MTG設定責任者
理事会		団体の理念やビジョン・ミッションを踏まえて組織の方向性を示し、舵取りを行う。 ・事業計画・予算など重要事項を審議・決定する ・事業や活動がビジョン・ミッションの実現に向かうものになっているかを確認する ・団体運営が持続可能かつ健全に行われているかを確認する ・必要に応じて方針の整理や優先順位の確認、助言・支援を行う	年間 4回	理事 ★中谷
マネジメント 会議		限られた資源を有効に活かしてより効果的に事業を進めるとともに、持続可能かつ社会的責任に耐えうる組織づくりを担い、理事会を補完する。 →事業全体・組織全体を把握して、必要な議論をし、改善の手立てを提案する →理事会・事務局・各チーム・会議等に対し、提案やフィードバックを行う（決定権は持たない）。	月1回 程度	★大野 榎原 加藤 武田 中谷
事務局	コアチーム	団体のミッションを具体的な事業や活動として実行する。 ・事業計画に基づき活動を実施する（運営チームが円滑に動けるよう支援） ・日常的な団体運営（会計・事務等）を担う ・会員・寄付者・パートナーとの関係を築く ・理事会の意思決定を実行に移す ・活動の成果や学びを整理し、社会に発信する	隔週	武田 ★中谷
	広報PR チーム	団体の事業や活動に関する情報をより多く・広い層の人に届けることで、社会的インパクトを高める。ファンや仲間を増やし信頼や協力を高める（PR＝：Promotion&Relationship）。 ・日常的なSNS運営、メルマガの管理運営、紙媒体の広報物の作成や活用を担う	年3回 程度	楠本 佐藤 武田★ 中谷

	ファン ドレイ ジング チーム	団体運営の基盤を安定化させるために、寄付を増やすためのアクションを検討・実行する。また、寄付以外の財源確保についても検討し必要に応じて施策を立案・実行する。 ・月額サポーターキャンペーンを実施する（年度末） ・広報PRチームとの連携による日常的な情報発信の仕組み化	隔月 程度	武田 中谷 ★寺崎
--	--------------------------	--	----------	-----------------

<事業運営に関する会議体>

チーム (会議体)		Mission・役割	MTG 頻度	メンバー ★MTG設 定責任者
ロビイ ング・ 社会発 信チー ム	全体	<Mission> ●現場の声を政治や行政、社会に届け、政策や制度をよりよく変えていくこと ●全国の教職員が「声を発する意味」を感じ、「変えていける実感」を持てるようにすること→まずはエンタクメンバーやフキダシ登録者がその実感を持てるようにする。 <役割> ①基盤整備とアクション(ネットワーク構築・ノウハウ蓄積・記者会見・提言書提出・院内集会等) ②内部盛り上げ(声を集める+関与感づくり+成果の実感を届ける) ③教職員を対象としたWEBアンケートサイト「フキダシ」の運営 ④WEBメディア「メガホン」の運営	月1回 程度	小林 武田 吉村★ 佐藤 (斎 藤) 榎原 加藤 上條
	フキ ダシ 担当	上記役割の③に関して、チーム全体で確認したテーマや方向性を踏まえて、具体的にアンケートの設問等を作成し、フキダシに掲載する。SNS連携パートナーとの協働で実施するInstagramでのアンケート実施も担当する。	適宜	斎藤 小林 武田★
	メガ ホン 担当	上記役割の④に関して、チーム全体で確認したテーマや方向性を踏まえて、具体的にWEBメディアに掲載していくコンテンツ(記事・ラジオ)を作成・リリースする作業を担う。	年3回 程度	斎藤 建石★ 武田 加藤 山本
AISnet 運営チ ーム		<Mission> マイノリティの子どもを含むすべての子を包摂する学校教育の実現をめざし、その法的基盤となる「<u>学校DE&I法(仮)</u>」の制定、その他必要な政策を推進するネットワーク団体=すべての子を包摂する学校づくり推進ネットワーク(AISnet)の事務局機能を担う。 <役割> ①賛同団体・個人の募集 ②記者会見やイベントの実施(コーディネート) ③ロビー活動・社会発信・PR等	月1回	小谷 武田 尾花★

エンタ ク チーム		<Mission> ●「エンタク」内での交流や学び合いを通じて教職員をエンパワメントする。 ●イベント実施やスレッド書き込み等を通じたコミュニティを盛り上げ・活性化を図るとともに、メンバー増加を通じた仲間の輪の拡大、団体の活動基盤の安定化等を行う。 <役割> エンタクのコミュニティ全体の「理想の状態」を握っておき、現在の状況を把握分析して、必要な手立てや策を講じるとともに、他チームや理事との認識合わせを担う。	月1回	塚本★ 藤倉 上條 藤 山下 加藤
エンジ ン チーム		<Mission> 全国各地の教職員がオンラインで集い、それぞれの職場で“マイチャレンジ”に取り組む長期プログラムを実施することで「つながりを力に自分の教室や職場を変えていく」を実現するとともに、エンタクのコミュニティ強化に貢献する。 <役割> ①エンジンのプログラム運営・参加者のマイチャレンジに伴走 ②広報と参加者募集 ③エンタクチームと連携してコミュニティの活性化を図る	実施 中は 月2回 程度	大野・ 工藤・ 武田 / 横山★
ルール メイ キングチ ーム		<Mission> 認定NP0法人カタリバからの業務委託を受け、関東地域において、ルールメイキングの実践を学校に広げるとともに、ルールメイキング実践者（生徒・教員）の熱を高め、主体性を引き出すサポートを行う。 <役割> ①オンラインや対面での教員交流会や実践シェア会の実施 ②地域児童生徒大会の実施 ③カタリバとの連絡調整 ④エンタクのコミュニティとの相乗効果の創出	月1回	逸見 ★・武 田 / 楠 本
対話合 宿チ ーム		<Mission> 同じビジョン・方向性を共有する仲間とのつながりを広げ、安心できる信頼関係を育むことを目指したエンパワメントの場づくりを行う。 <役割> ①1泊2日のプログラムの企画運営 ②広報と参加者募集 ③エンタクチームと連携してコミュニティの活性化を図る ④その他、手配・予約などのロジ面を担う	概ね 月1回 直前 は、 月2回 程度	若杉・ 武田 ★・中 谷 / 平 松
公開対 話会チ ーム		<Mission> ゲストと現職教職員が、学校教育をめぐるさまざまなテーマについて対話するイベントを実施することで、学校教育にまつわる多様な問題について提起するとともに、団体や「エンタク」等の認知度の向上を図る。 <役割> ①ゲストとテーマを設定して企画づくりと当日の進行を担う	月1回 ～隔 月程 度	山本・ 武田 / 高山・ 浅野★

		②広報と参加者募集 ③エンタクチームと連携してコミュニティの活性化を図る ④その他、ゲストとのやり取りなどのロジ面を担う		
冬のイベントチーム		<Mission> ●対話を通して全国の教職員がつながり、エンパワメントされ、それぞれの地域で半径1mから教育を変えていく契機をつくる。 ●団体自体や「エンタク」等の認知度の向上を図る。 ※今回は大阪開催。大阪は、定期的にSVP関連のイベントを行っている。理事だけではなく、エンタク会員も一緒にイベントを作ってくれている。その勢いを活用しながら、関西にいるエンタクメンバーとともに、団体や「エンタク」等の認知度の向上を図る。大阪の教育から、次期学習指導要領に記載されている「包摂」について考える機会とする。 <役割> ①ゲストやテーマを設定し、企画づくりと当日の進行を担う ②広報と参加者募集 ③エンタクチームと連携してコミュニティの活性化を図る ④その他、ゲストとのやり取りなどのロジ面を担う	概ね月1回直前は、月2回程度	榎原 久保 豊田 小谷★ 塚本 藤 山本 中谷

●ボランティアやプロボノの活用

現状では、事務局2名は非常勤であり、また実働の多くを理事が担っているが、学校現場で働いている現職教職員も多く、稼働量には限界がある。そこで、今年度は重点課題の1つとしてボランティアやプロボノ（仕事で培った専門知識や経験を活かして、社会貢献するボランティア）を積極的に活用した実働スタッフを増員していく。マネジメントやコーディネートにはコストがかかるが、ボランティアはエンタクのメンバーを中心に呼びかけをすること、プロボノはサービスグラント等・一定の質が担保されているプラットフォームを活用することにより、負担軽減を図ることとする。